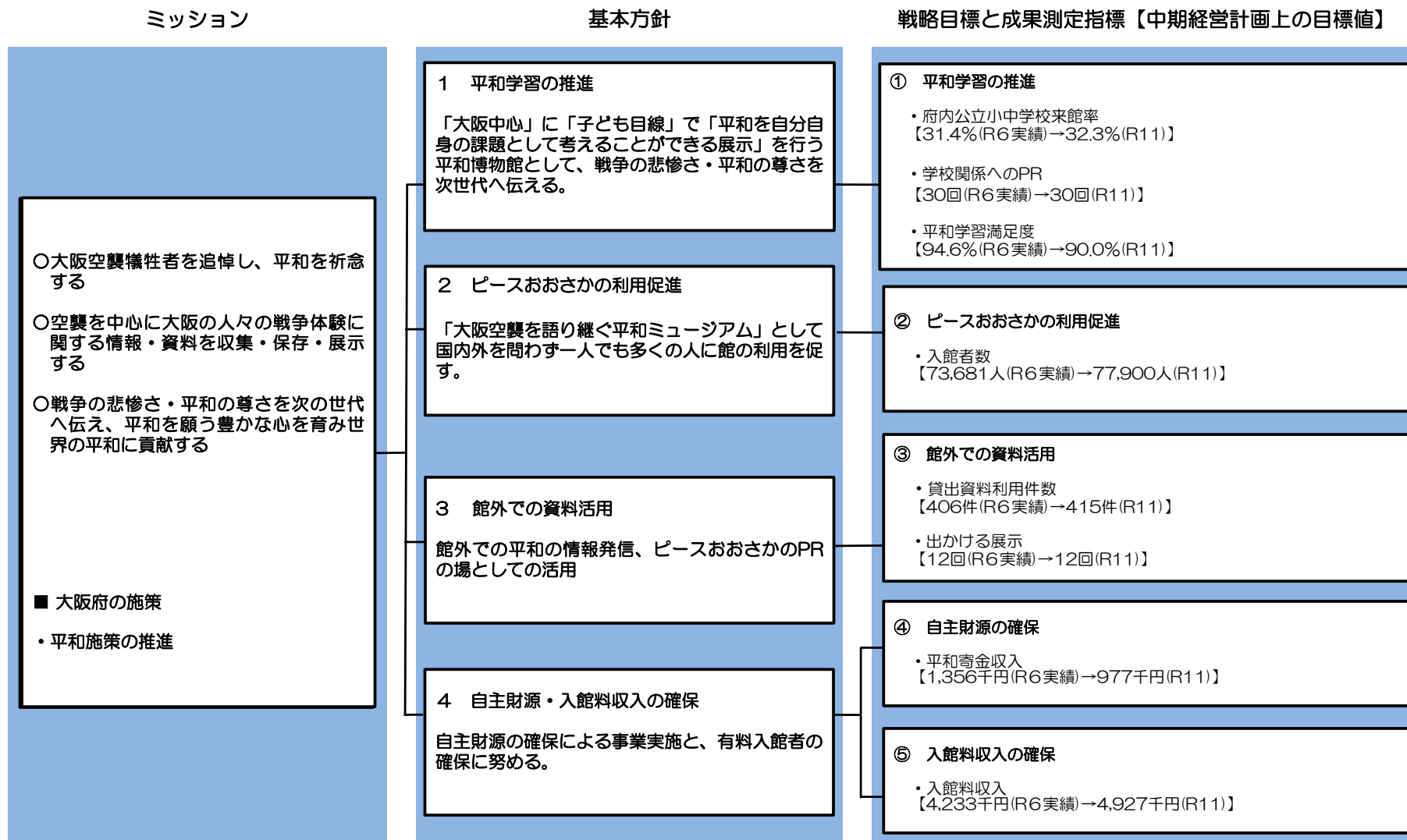


法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
作成(所管課)	府民文化部人権局人権企画課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和7年度の経営目標達成状況及び令和8年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)													
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 [見込値]	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R7~R11)		R8目標設定の考え方 (数値の視視) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
											R8 目標値	最終年度 目標値	
① 平和学習の推進	府内公立小中学校来館率 (ピースおおさかに来館した府内市公立小中学校数/ 府内全公立小中学校数)		%	31.4	31.6	× 30.0	20	0	31.8	20	31.8	32.3	中期経営計画に基づく。
	学校関係へのPR		回	30	30	30	10	10	30	10	30	30	中期経営計画に基づく。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											戦略目標達成のための活動事項		
最重要とする理由、 経営上の位置付け	<p>○当法人は、①大阪空襲の犠牲者を追悼し、平和を祈念する ②空襲を中心に大阪の人々の戦争体験に関する情報・資料を収集、保存、展示する ③戦争の悲惨さ・平和の尊さを次の世代に伝え、平和を願う豊かな心を育み、世界の平和に貢献することを目的としている。平成27年4月に「大阪中心」に「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えることができる展示」にリニューアルし、主に平和学習施設として運営している。</p> <p>○先の大戦を自らの体験として語る人は少なくなる一方、平和学習施設として当法人の果たすべき役割の重要性は高まっている。平和の尊さを次世代へ伝えるべく、館の取組みについて府内小中学校へ働きかけ、1校でも多くピースおおさかを利用してもらうことを最重要目標とする。</p>												
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○当財団の運営費のほとんどは府市の補助金に依拠しているが、平成20年の財政再建プログラム案において「府派遣職員は必要最小限」とされ、それ以降の補助金の減額も相まって、組織体制、事業展開とも極めて厳しい状況にあり、限られた人員・資源を生かした効果的な運営が求められている。</p> <p>○府内の公立小中学校については、市区町村によってピースおおさかへの来館率にばらつきがあり、来館率の低い市区町村への効果的な働きかけが必要である。</p>												
活動方針	<p>令和5年度に作成した学習用デジタルコンテンツの周知を含め、館の取組みについて学校等への働きかけを行い、小中学生への平和学習機会の充実を図る。 また、これまで蓄積してきた収蔵資料の整理、保存・活用に努め、博物館機能の強化を図るとともに、平和・人権研修などの誘致や他団体との連携を深め、平和ミュージアムとしての情報発信に努めていく。</p>												
	<ul style="list-style-type: none"> ・府内全小中学校に対する来館案内 ・市町村教育委員会や校長会等におけるPRの実施 ・令和6年度から令和7年度にかけて新たな写真や機能を追加したデジタルコンテンツの更なる利用促進 ・講堂や会議室の利用の促進、教員等による平和や人権研修の誘致 ・定時映画やDVD化した戦争体験証言映像の上映、見学ワークシートの提供、戦跡めぐりなど、教員の平和学習のサポート ・学校の来館時期の分散化への取組み ・学校教員向けのアンケートによる効果的な平和学習のニーズの把握 												

法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
-----	------------------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 【見込値】	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R7~R11)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の 場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
											R8 目標値	最終年度 目標値		
											① 平和学習の推進	平和学習満足度 (「ピースおおさかが平和学習の場として役立ったか」という問いに対し、「役立った」/全回答) (選択肢は、「役立った」「役立ったがもう少し工夫・改善があればなお良い」「あまり役立たなかった」「役立たなかった」)		
② ピースおおさかの利用促進	入館者数		人	73,681	72,300	75,351	15	15	77,100	15	77,400	77,900	音響設備工事による講堂利用停止期間を踏まえ、中期経営計画の数値から変更。	・企画事業の充実 ・他の博物館等との連携 ・学校の来館時期の分散化への取組み ・SNSを活用した情報発信 ・夏休み等校外学習がない時期の催しの充実
③ 館外での資料活用	貸出資料利用件数(デジタルコンテンツ利用件数含む)		件	406	407	430	10	10	↓409	10	409	415	中期経営計画に基づく。	・来館が困難な学校に向けたPRの実施 ・デジタルコンテンツの説明会の開催その他積極的なPRの実施 ・貸出資料を増やして対応
	出かける展示		回	12	12	12	10	10	12	10	12	12	中期経営計画に基づく。	・展示先の確保 ・展示内容の充実

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④ 自主財源の確保	平和寄金収入		千円	1,356	956	1,522	15	15	↓967	15	967	977	中期経営計画に基づく。	・企画事業等での積極的な寄附の呼びかけ ・税の優遇措置のPRの継続
⑤ 入館料収入の確保	入館料収入		千円	(4,233)	4,163	4,664	10	10	↓4,649	10	4,649	4,927	中期経営計画に基づく。	・魅力ある企画事業の実施やSNSを活用した積極的な情報発信

R7得点合計 【見込得点合計】	80
----------------------------	-----------

- 【凡例】
- ・☆はR8年度からの新規項目
 - ・×は目標値未達成
 - ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 - ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 - ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
-----	------------------

CS調査の実施概要

○令和7年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
平和学習満足度	アンケート(書面・小中学校教員記入)	学校行事で来館した小中学校の教員	505	通年

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
アンケートに記載の主な意見(要望・改善点など) ①戦争の被害面だけでなく、加害面からの展示もすべきである。 ②現代の世界情勢も展示してほしい。 ③混雑しないよう調整してほしい。 ④順路やゾーンの表示を分かりやすく表示してほしい。	(結果を踏まえ実施した取組) ③可能な限り予約段階からの入館調整を行い、混雑防止に努めた。 (今後実施予定の取組) ②近年の世界情勢を踏まえた展示内容の一部修正を検討する。 ④受付より入館時に説明を徹底するとともに、案内表示の増設を検討する。

○令和8年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
平和学習満足度	アンケート(書面・小中学校教員記入)	学校行事で来館した小中学校の教員	530	通年

・CS調査に関する令和8年度目標(再掲)【※ 成果測定指標の場合】

戦略目標	成果測定指標	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 【見込値】	R8 目標値	CS調査の数値を成果測定指標に 設定した理由及び目標値の根拠
平和学習の推進	平和学習満足度	%	94.6	90.0	96.5	90.0	(設定した理由) 小中学生の来館が来館者総数の半数以上を占めており、平和学習を推進する機関としてその満足度が重要な要素となるため。 (何をめざすのか) 当館の展示見学や提供する平和学習メニューにより、その満足度をできる限り高水準に保つこと。 (目標値の根拠) 展示内容や歴史認識などについての様々な考え方、施設面の制約等での限界もあり、年度により実績値は変動するため、90%を最低ラインとして設定する。

CS調査の実施概要

○令和7年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度(小中学生)	アンケート(書面)	入館者のうち、小中学生	1,300	通年

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
アンケートに記載の主な意見(要望・改善点など) ①体験型の展示を増やしてほしい。 ②混雑しないようにしてほしい。 ③順路やゾーンの表示を分かりやすく表示してほしい。 ④館内が暑い。	(結果を踏まえ実施した取組) ②可能な限り予約段階からの入館調整を行い、混雑防止に努めた。 (今後実施予定の取組) ③受付より入館時に説明を徹底するとともに、案内表示の増設を検討する。 ④特に夏場において館内の温度管理を徹底し、空調の綿密な調整を行う。

○令和8年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度(小中学生)	アンケート(書面)	入館者のうち、小中学生	1,350	通年

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人大阪国際平和センター

[1]

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
府内公立小中学校来館率	%	31.6	30.0	△ 1.6

未達成の要因				要因分析(要因と考える根拠)						要因分析を踏まえた今後の対応
①	令和7年度は、4月中旬以降半年間にわたって開催された大阪・関西万博において、大阪府内の小中学生が会場への招待を受けることとなり、一部の小中学校では、別途校外学習の機会を設けることができなかったため。			大阪観光局等から小中学生が団体で利用する他の施設でも同様の傾向がある旨の情報を受けた。 校外学習施設として当館とセットで来館されることが多い大阪歴史博物館でも、ほぼ同様の実績値であった。 資料貸出の申込み等があった小中学校の教員からの聞き取りでも、左記の内容を申し述べられた。						<p>令和6年度と令和7年度の実績を比較し、来館率が低下していた市区町村に対して重点的にPRを行っていく。</p>
	関連項目名	来館校数	単位	校	R7当初想定値	441校/1396校	R7実績値	419校/1396校	差	

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[1]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値
学校関係へのPR	回	30	30

[2]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値
平和学習満足度	%	96.5	90.0

マイナス
(現状維持)
目標の考え方

校外学習の小中学校の来館促進を図るためには、当館を積極的にPRし、その利用を呼びかけていくことが重要となる。府市所管課の協力のもと、学校のメーリングリスト等を活用した来館促進PRや各学校へ館のチラシやイベントの案内の送付に加えて府内公立小中学校の校長会等の場を活用してのPRを行っている。前計画期間中は、年々PR回数を増加させ、令和5年度からは年間30回行ってきた。本取組は、来館率の向上に有効なものと考えており、令和8年度においても30回を維持することとして目標値を設定する。

マイナス
(現状維持)
目標の考え方

平和学習満足度は、来館のあった小中学校の代表教員に対するアンケートにより算出しており、リアルな実物展示や映像、定時映画の上映、見学ワークシートの提供等で概ね高評価を受けている状態である。しかしながら、アンケートによるニーズに出来る限りの対応はしつつも、展示内容や歴史認識などについての様々な考え方、施設面の制約等での限界もあり、年度により実績値は変動するため、90%を最低ラインとして設定する。

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[3]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値
貸出資料利用件数 (デジタルコンテンツ利用件数含む)	件	430	409

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>令和7年度は、戦後80年の節目の年にちなんだ企画を行う目的で、当館の貸出資料を活用して資料展示やDVD上映会を行う団体が多く、当初の想定を上回る実績があった。 令和8年度は、一定程度この反動による減が生じることが見込まれるため、当初の中期経営計画どおりの目標値を設定する。</p>
--	---

[4]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値
出かける展示	回	12	12

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>館外での平和の情報発信と、ピースおおさかのPRの場として、パネル・実物資料の展示を図書館等の協力のもと実施している。 令和2年度より、中期経営計画で定めた目標(12回)を達成してきたが、限られたマンパワーと展示先の確保が不透明な状況の中、継続的に実施するため、令和8年度においても12回を維持することとして目標値を設定する。</p>
--	---

法人名

公益財団法人大阪国際平和センター

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[5]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
平和寄金収入	千円	1,522	967

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<p>令和7年度は、戦後80年の節目の年であり、特別な思いをもって遺族の方(2名)から計50万円の寄附があった。また、当館でも戦後80年にちなんだ特別企画の開催等により、多くの募金が集まった。</p> <p>上記のとおり、令和7年度は当初の想定を大きく超える平和寄金収入があったものであり、令和8年度の目標設定にあたっては、このような特別な要因は考慮せず、当初の中期経営計画どおりとする。</p>
--------------------------	--

[6]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
入館料収入	千円	4,664	4,649

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<p>入館料収入は有料入館者数に左右されるところ、令和7年度は、戦後80年にちなんだ取組や大阪・関西万博の開催により外国人入館者をはじめとする有料入館者数が増加した。これに伴い、入館料収入は当初の想定を大きく超え、4,664千円となる見込である。</p> <p>令和8年度の入館者数は、主に大阪・関西万博への招待事業の影響で減少した小中学生入館者の回復を見込むが、入館料収入には反映されないため、令和7年度の反動を含め、目標値としては当初の中期経営計画どおりとする。</p>
--------------------------	---